

JICAガーナ 事務所ニュース

所長の一言

新年あけましておめでとうございます。

昨年のガーナは飛ぶ鳥を落とす勢いでした。7月サッカーワールドカップではアフリカ唯一のベストエイトに進出してブラックスターズ旋風を巻き起こしました。経済的にも海外投資が堅調に伸びインフレ率も低下し、11月にはGDPの算定方法の改訂により一人当たりGDPが1000ドルを超え、念願の中所得国となり、そして12月には予定どおり産油国となりました。また、昨年はガーナと日本にとって特別な年でした。3月に皇太子殿下がガーナをご訪問され、また、9月にはミルズ大統領が訪日され、両国の古くからの友好親善の絆がさらに深まるとともに民間投資も含めて新たな協力関係に向かう契機となりました。

JICAガーナも昨年5月に事務所を移転し新たな気持ちでスタッフ一同が勢いづいたガーナとともに着実に事業を展開しています。大統領訪日の際に再開が発表された円借款については、今後インフラ分野を中心に案件の発掘・形成を進め、将来的には支援の規模を拡大につなげていきたいと考えます。また、シエラレオネ、リベリアに対する支援も実施体制を固めつつ着実に進めています。特にガーナを通じた南南協力は今後も力を入れていく所存です。3カ国での事業実施に関して今後とも関係者の方々のご支援をよろしくお願いいたします。

昨年は大きな事故や病気もなく無事に過ごすことができました。今年も元気に仕事に取り組めるように安全管理、健康管理には十分留意してください。特に、マラリアについてはアクラといえども安心できません。予防薬を服用して防蚊対策をしっかりすることが大事です。

1. 最近の動き

参議院 ODA 調査団

12月7日から10日まで参議院 ODA 特別委員会の調査団がガーナを訪問しました。メンバーは柳澤光美議員（民主党）、米長晴信議員（民主党）、佐藤正久議員（自民党）および参議院事務局から宇佐美 正行首席調査員と和喜多 裕一調査員の5名です。本調査では国民の視点に立ち、効果的、効率的な援助のあり方や戦略的な援助と ODA 実施体制のあり方などについて現状を把握した上で提言することを目的としています。

調査団はアクラでの TVET（技術教育制度化支援計画）プロジェクト（技協）、野口記念医学研究所（無償・技協）、コフィーアナン PKO センターの視察に加え、1泊2日でクマシの天水稲作

目次

所長の一言

1. 最近の動き

- 参議院 ODA 調査団
- 配電設備整備計画準備調査
- 「クマシ地域総合開発計画」詳細計画策定調査
- ガーナの産業人材育成に向けて
- 日本・リベリア友好母子病院開業

2. 健康管理便り

- 熱中症とあせもについて

3. ボランティア便り

- 理数科分科会イベント

プロジェクト（技プロ）、国道8号線（無償）、オチェレコ灌漑事業区（無償・技協）、国道1号線視察（無償）を視察しました。また、大統領、財務大臣、エネルギー大臣をそれぞれ表敬訪問しました。アクラへの帰路、武辺隊員の任地であるアチュア村を訪問し同隊員が導入したパイナップル栽培が定着していることを確認するとともにファンティパイナップルを試食してその甘さに驚いていました。

今般訪問では、当初予定どおり JICA 関連事業について幅広く視察を行うことができ、各議員からはアフリカにおける ODA の現場に対する激励、あるいは今後の日本の ODA の持ち味の活かし方など建設的なコメントを多数頂きました。また、ガーナ側関係者および視察サイトの人々とも多く交流を持ち、ガーナの人々の穏かな気質と親日ぶりにも触れつつ、同国が抱える課題等についても直に意見交換がなされたことは有意義でした。



オチェレコ村のチーフ、農民グループ代表者たちと

調査団はクマシで活動中の協力隊員およびシニアボランティアとの懇談の場も持ち、隊員たちの奮闘ぶりに耳を傾けて下さるとともに、改めて同事業の持つ意義について認識頂く良い機会となりました。特に調査団長である柳澤議員を中心に、我が国 ODA 事業に関する情報発信のあり方について、どのように内外にインパクトを与えていくか、また青年海外協力隊経験者の帰国後の人材活用の促進について繰り返しコメントあり、今後も JICA としてしっかり検討していきたいと考えます。

（所長 山内）

「One Step More! Lightning Ghana」 －配電設備整備計画準備調査－

11月22日から12月16日まで、配電設備整備計画準備調査が実施されました。昨年ガーナ政府より要請された、全国27ヶ所における既存配電設備強化に関する準備調査です。

現在ガーナは電化率約67%を達成していますが、地域によって電化率の差は激しく、また、近年電化地区が急増しているため、既存設備での不具合（電力設備の老朽化やキャパシティオーバー等による電圧低下や停電等）が報告されています。2020年までに電化率100%を達成するため、「電化率向上」に取り組んでいますが、同時に電力の「安定供給」は重要な課題であり、ガーナでは既存の配電網設備の強化（変電所容量の増加、配電線の太線化等）が求められています。

今回の調査の目的は、プロジェクト実施地点を絞ること。決められた予算枠の中で、全国津々浦々、27ヶ所の配電網強化を実施することは効率が悪いので、要請箇所を地域別にまとめる形で絞りこみ、その地域の配電



ミニッツは持ち回り署名となったので、協議最終日にエネルギー省、Electricity Company of Ghana (ECG)、Volta River Authority, Northern Electricity Department (VRA-NED)の関係者とともに記念撮影

設備強化を実施することで、電力の安定供給につなげたいと考えています。今回の調査では、その地点の絞込みと、それに係るガーナ側との協議が行われました。

調査団は、北はアッパーウエスト、ノーザン州から、東はボルタ、西はウェスタン州まで、まさに全国を駆け巡って調査を行いました。現場に赴き、既存施設を調査し、現地電力公社の人から話を聞き、無償資金協力として、本プロジェクトでどのような効果が得られるのか、ミレニアム開発目標や貧困削減への貢献度を測るためのデータも入手しました。フィールド調査結果に加え、ガーナの電力事情、他ドナーの支援状況、ガーナの開発課題を考慮し、候補地点について、エネルギー省及び電力公社 2 社と協議を行った結果、最終的には 7 地点にまで絞り込んで合意に達しました。最終的な本案件実施地点については、日本で最終検討がなされ、今年 1 月の次の調査にてガーナ側と協議の後にさらなる絞込みが行われます。



既設配電ルート調査



変電所(外観)

これまで日本は「地方電化」として 1989 年の第 1 次に始まり、これまで 5 次にわたり地方部における電化率向上に貢献してきましたが、本協力ではガーナにおける電力の「安定供給」を目指した支援を実施する予定です。

(企画調査員 大草)

夢広がるクマシの未来予想図！

—「クマシ地域総合開発計画」詳細計画策定調査—

クマシ地域総合開発計画の詳細計画策定調査のため、本部経済基盤開発部の三條課長率いる調査団が 12 月 5 日から 23 日まで、アクラ及びクマシで事前調査を行いました。

ガーナでは堅調な経済発展に伴い、急速な都市化が進んでいます。特にクマシは経済と物流の拠点であり、クマシ市とその周辺を含むクマシ都市圏は現在、都市問題(人口過密に伴う住居の不足やスラムの拡大、衛生環境の悪化、都心部の緑の減少、交易集中による交通渋滞など)に直面しており、都市の開発計画策定が急務となっております。開発計画では、将来その土地の人口増加等に伴う状況の変化や発生する問題を見越した上で、都市基幹施設や土地利用の概略的な配置を考え、中・長期的に包括的な開発戦略をたてます。



クマシ市の近隣地区エジスの都市計画事務所にて、現地で実施中の世銀支援プロジェクトで作成した地図を確認

ガーナでは最近、新しく空間利用計画法令(New Spatial Planning System)を策定し、導入に当たって世銀の支援も

受けています。クマシ都市圏も他都市同様、拡大し続けていますが、総合的な開発計画は依然として欠けています。本開発計画調査型技術協力では、今後の都市開発ニーズの抽出・分析を行い、クマシ都市圏の持続的な成長のための戦略的な都市開発計画が策定されることを目的としています。

今回の事前調査では本格調査の協力内容の確認を行うため、調査団はカウンターパート機関となる環境科学技術省の都市計画局(TCPD:Town and Country Planning Department)、アシヤンティ州政府、クマシ市、関連ドナーとの協議及び現地調査を実施しました。その結果、本格調査では新空間利用計画法令に基づき、土地利用計画、及びその上流のプランとなる空間利用計画の両方を策定する事で合意しました。それへ至るまでには、フランス開発機構(AFD)のプロジェクトとの重複の懸念や新空間利用計画法令の各種計画の内容についてステークホルダーの理解が異なっていたりと、調査が難航した時もありましたが、最終的には主な協議事項を議事録(Minutes of Meeting)にまとめ、都市計画局と調査団で署名を行う事ができました。本調査では数多くのステークホルダーとの協議を通じてクマシの開発計画の必要性を再確認できたのは有意義だったと思います。

次のステップとして、今回の会議には参加していないクマシ周辺の自治体を含む関係者を集め、改めて本プロジェクトに関するコンセンサスを得るための協議を行う予定です。JICA ガーナ事務所としてもプロジェクトの早期実施に向けて TCPD をサポートしていきたいと考えています。今後もクマシ都市圏がガーナの経済活動及び物流の要衝として成長し、かつ持続可能な都市として発展を続けていくことを、本プロジェクトを通じて支援して行きたいと思っています。

(在外専門調整員 吉岡)



クマシ市職員との協議の様子



協議議事録の署名

ガーナの産業人材育成に向けて



COTVET 外観

昨年末の石油生産稼働に象徴されるようにガーナの経済は好況が続いていますが、ガーナ政府はさらなる成長を志向して、人材育成を重要課題と位置づけて教育改革にこれまで取り組んできました。その一環として、COTVET(Council for Technical and Vocational Education & Training)という TVET を統括・調整する機関が 2007 年に設立されました。

この若い組織に対し、JICA は職能基準の策定や資格制度の整備、職員の人材育成等を中心とした能力強化支援、さらには3つの訓練校

(ATTC,NVTI、アクラポリテク)への試行訓練実施をこれまで「技術教育制度化支援プロジェクト」を通じて行ってきましたが、今回、2011年3月のプロジェクト終了を前に、今までの協力実績を確認し、今後のプロジェクト活動に関する提言及び教訓を抽出することを目的に11月18日から12月10日にかけて終了時評価調査が行われました。



供与機材の一部(溶接機)



企業内実習で生徒を受け入れた Ghana Cocoa Processing Corporation の修理工場



訓練パッケージの確認

調査では、プロジェクト活動が特に昨年8月の中間レビュー調査以降に飛躍的な進捗を見せていることが明らかになりました。またプロジェクト開始当初から遅々としてきたCOTVETの人員体制整備も、この1年強の間に人員増を少しずつ実現させており、その能力強化は徐々にではあるものの発現してきたといえます。また具体的な職能基準策定、資格制度の整備及び産業界との連携を司るCOTVET常任委員会も設立、本格稼働に入っており、制度化も進展していることが確認されました。

一方、JICAのプロジェクト終了後の持続性を問う、自立発展性についてはまだまだ課題があります。COTVETの人員はその業務量に比して未だなお不足しており、プロジェクト終了後の自立発展性は現時点では高いとはいえません。また、プロジェクトで導入しているCBT(Competency Based Training)アプローチは多大な資金が必要であるため、現在の政府予算では国内展開をまかなう余力はありません。

従って、今後はどのように自立発展性を維持できるかを関係者で話し合っていく必要があります。具体的には、COTVETの人員体制のさらなる強化、企業内実習等産業界とのさらなる連携、資金アクセス改善のための制度構築等を考えていかなければなりません。

最後に、終了時評価のミニッツ署名前日に開催された合同調整委員会にて、COTVET事務局長のダン氏が唱えたCOTVETのマントラを紹介します。

「Leaders in Skills Development !」

皆さんもこれを唱え続ければ、きっとCOTVETは今後もガーナの輝ける未来に向かって力強く走り続けることでしょう。

(職員 福原)

(COTVETについて詳しくはこちら

<http://www.jica.go.jp/project/ghana/0604633/index.html>)



Ghana Broadcasting Corporation への
企業内実習に関するヒアリング



第4回合同調整委員会(JCC)

日本・リベリア友好母子病院開業

前回の事務所ニュースでは 11 月 25 日に日本・リベリア友好母子病院の開院式開催についてお伝えしましたが、1 ヶ月近く経った 12 月 22 日、同病院が正式に開業しました。

最初は外来診療から始めて「慣らし運転」し、次第に分娩や入院を取り扱うということです。ただ、同病院に対しては医療機材保守管理、病院管理(5S-TQM)、母子保健の3分野で個別専門家派遣を行っておりますが、これらの分野における職員の能力および実施体制における具体的な改善余地が明らかになりました。1 月以降、各専門家の第 2 次派遣(医療機材保守管理専門家については第 3 次派遣)を行います。この協力を通じて今年度は同病院による母子医療サービス提供体制の基盤整備を目標といたします。

当初計画より少し時間が経ってしまいましたが、ようやく同病院が開業し、これを祝福するとともに関係各位のご尽力に敬意を表したいと思います。同病院がリベリアの周産期医療の要の 1 つとしてより多くの母子、女性達に貢献することを願います。

(リベリアフィールドオフィス 企画調査員 中嶋)

Liberian-Japanese Friendship Maternity Hospital (LJFMH) launched service

About one month after its opening ceremony LJFMH launched its services on December 22.

The hospital began outpatient services and will gradually provide delivery and in-patient services. To provide mothers and women with good care hospital staff should develop their capacity and three Japanese experts (medical equipment maintenance, hospital management (5S-TQM) and mother & child health) have been working for it. It is aimed that the experts' cooperation will contribute to establishment of basis for the hospital's mother and child care system.

Though LJFMH's opening unexpectedly delayed, I'd like to congratulate and admire all the people who have worked hard for this milestone. It is strongly wished that this hospital would help and save more mothers, children and women in Liberia.

(Liberia Field Office Project Formulation Advisor Nakajima)

2. 健康管理便り

熱中症とあせもについて

今年もまた、暑い季節になってきました。昨年度、この時期に相談が多かったものが、熱中症とあせもです。熱中症は、軽症では、のどの渇き、だるさ、嘔気、などです。軽い症状の時は、自分では脱水症状と気づかない場合が多いようです。中等度や重症になると、脱力感、眠気、嘔吐、頭痛、発熱、意識障害などの症状がでます。特に、外出時は水分を多めに摂るよう心がけてください。スポーツ飲料や ORS が効果的です。また、涼しい服を着たり、帽子をかぶりましょう。

次に多いものが、あせもです。かなり、痒くなるので、掻き過ぎて、細菌感染をおこし、化膿することがあります。予防が大切です。

あせも対策

- ① 吸湿性の高い下着(綿や麻)を身に着ける。
- ② 汗をかいたら、小まめに汗をふき取り、シャワーを浴びる。
- ③ 症状が酷い時は、ステロイド外用や化膿した場合は抗生剤が必要となります。
- ④ ベビーパウダーや保湿クリーム(シアバターなど)をつける。

(健康管理員 東瀬)

3. ボランティア便り

理数科分科会イベント

—授業交流会・教育実習および SMART project—報告

11月22～24日の理数科分科会イベントは、授業交流会・教育実習と合わせて、教員養成校でワークショップを行う新しい試みもあり、盛りだくさんの3日間でした！

授業交流会・教育実習は、隊員が授業を実施・参観し、意見交換を行うもので、22日は小学校で[Straw Polyhedron]・[More than 10 addition](算数)[Magnetism](理科)「Keyboard」(ICT)の授業をしました。どれも、身近なものを使って教材が作れることや、操作を通して学ぶ大切さなどのメッセージが込められ、児童はとても楽しそうに授業に取り組んでいました。

23日は、[Explanation of Class Test]・[Linear Equations and Inequalities](数学)[PC Basic Components](ICT)[Sound](理科)の授業。こちらは中学校ということで、より「学力定着」に根ざした授業が行われ、課題に取り組む生徒たちの真剣な表情が印象的でした。

24日は、学生対象のワークショップ[SMART project(Science Mathematics Activity Resource for Teaching)]を行いました。これは、先生の卵である学生に算数・理科の教材を紹介するもので、[Can whistle][Pinhole camera][Plastic bottle rocket][Straw polyhedrons][Multibase materials]の講義を行いました。隊員だけでなく、今年度日本で研修を受けてきたガーナ人教師も講師として迎えたことで、日本で学んだことを学生に伝えるよい機会になりました。参加した学生からは、「またぜひこのようなワークショップをやってほしい」との声が多く寄せられました。

今回のイベントは、理数科分科会員だけでなく、調整員の方々やタマレ隊員、受入校の先生方、教育事務所などすべての方々の協力があったからこそできたのだと思います。今後もこのようなイベントをもっと深め、つなげていきたいです。



授業の様子



学校の生徒たちと

(JOCV 小学校教諭 小林令奈)